

## 6. フィリピンの古くからの言い伝え・迷信

「くしゃみが出ると誰かに噂をされている」、「雛人形をしまい忘れると婚期を逃す」など、日本には古くから多くの言い伝え・迷信が存在します。これはフィリピンも同様。その代表的ないくつかの言い伝えをご紹介します。

### 「食べている最中に、片付け始めるべきではない」

何人かで食事をしている時、テーブル上の食べ終わった皿などを片付け始めてはいけません。もし片付けたら、最後にテーブルに残った人が、その後友人や良きパートナーに恵まれず、孤独な人生を送ることになると言われているそうです。

### 「死者の通夜(家での葬儀)への参列後は、直接家に帰るな」

この迷信は“pagpag”と呼ばれ、現在でもよく行われています。日本で家に入る前にお清めの塩を振るのと同じで、死者の霊が家まで付いてくるから、途中で“pagpag(埃を振り落とす)”してから家に帰りなさい、という意味です。

また、死者の家族は参列者に「さようなら」と言って見送ってはいけません。これは、参列者自身の「死」を想起させることになる言われているようです。

更に、お通夜で食事やスナックを提供された場合には、その場で食べてもいいが決して持ち帰るべきではない、不幸を持ち帰ることになる、と言われています。

## 「お祝い事、特に誕生日には Pancit(パンシット:ヌードル、麺)を食べなさい」

これは、中国や東南アジアでも一般的ですが、「長寿」を呼び込むとされています。



## 「精霊を尊びなさい」

現在でも超自然的な“神聖なる者”の存在は信じられているようです。「精霊が宿る深い森」のような場所を通る際には、信心深い多くのフィリピン人達は”tabi tabi po(通して頂いて「すみません）」”と言いながら通るそうです。それを言わず精霊を邪魔した場合には、説明できないような病気に罹り、その病は、日本で言われる「祈祷師」や「陰陽師」のような”albularyo”しか治すことができない、と言い伝えられています。

## 「兄弟姉妹は同じ年に結婚してはいけない」

こちらは“スコブ(sukob)”と呼ばれており、兄弟が同じ年に結婚してしまうと、2つの結婚に運を分けることになると言い伝えられています。

## 「自宅の段数は3で割り切れないようにする」

フィリピンの家屋の階段を「オロ(金)、プラタ(銀)、マタ(死)」と唱えながら、言葉ごとに1段ずつ上がっていくと、最上段は「オロ」か「プラタ」のどちらかで唱え終わります。不運を示すマタ(死)で終わるのを避けるためなのだそうです。

(A・W)